

人の絆

伊藤原中学校

三年

鯨坂

春月

私たちは今も、人生の「一歩」を歩んでい  
ます。時には、それはありふれたものだと感じ  
ることさえあります。しかし、その「日常」  
が突然、奪われてしまったら、私たちがどう  
なってしまうのだろうか。  
私たちがから「日常」を奪うもの、そのひとつ  
に自然災害があります。自然災害とひとく  
ちに言っても、標榜ですが、近年は地球温暖化  
の影響もあり、集中豪雨や土砂災害、台風など  
どが多く見受けられます。  
その中でも特に豪雨による被害をニコラス  
でよく目にします。洪水や水没した街を見る  
と、唖然とした言葉を失います。そこには何もか  
も変わり果てた街の姿が残ることでしょう。  
しかしそこには、人々の助けを取り戻すため  
に、烈しい勇敢な人々がいることも事実です。  
大きな災害があった時にいち早く現場に駆

けっける人々のこぼれ、災害ボランティア  
と呼びます。彼らは被災地のがれきの撤去や  
清掃、泥出しなど、力仕事です。炊き出  
し、被災者の言葉に身を傾ける傾聴活動、ま  
してや被災者の心のケアまで行うそうです。  
他にも、現地へ行く寸なくとも被災地のため  
募金を募ることなども、立派な支援と云える  
す。  
さて、その災害ボランティアですが、下は  
現地へ行って復興の支援をしている団体と  
いうように思えるがもしおぼろげに。私もおぼ  
ろげにはそう思っています。  
しかしその中には、私の想像を超える素養が  
しい人々の「絆」がありました。  
今回私はインターナショナルを通じて、実際に  
被災した被災地へボランティアを受け入れる  
劇しとボランティアを行って人たちの声を調  
べてみました。  
初めは互いに不安を隠しきれなかった様で  
すが、ボランティア活動を進めるうちに、互

い感謝の気持ちを持つようになった。ていまま  
した。ここで私が驚いたことがあります。それは  
ボランティアアアを受け入れる側だけでなく  
ボランティアアアを行う側も、様々な気持ちや発  
見があるという事です。実際にボランティア  
アに参加することによって、改めて人の絆や  
優しさに気付いたり、被災地の人々の笑顔を  
見ることによって、他の人の役に立ちたいという達成感  
を得たり、いろいろと学ぶことがありま  
した。被災地の方も、ボランティアアの際に励  
ましたり、人の暖かきを実感することができ  
ました。います。

このようにボランティアアは、互いに助けあ  
い、助けられ、感謝しあう、とても素晴らし  
い活動なんだな、と私自身感銘を受けました  
。また同時に、人とつながる大切さや暖かき  
を改めて感じました。

さて、今回は災害ボランティアアを例に挙げ  
ました。が、ボランティアアはこれに限った訳で

はありますせん。

災害ボランティアに年齢的な制限はありま

せんが、私たちは行動範囲が狭く、現地向行

って精力的に活動するというのの中、

のことも知れません。今、ここで私たちができ

ることはないでしようか。

その中の一つに募金があります。実際は募

金箱のある場所へ行けなくとも、インターネット

を通じて募金することもできます。

また、ボランティアに求められるものや道

具、諸注意などを知覚として蓄えておくこと

も大切です。実際はボランティアを行って体

調を崩してしまったりしてはがえって迷惑を

かけてしましますしね。

そして、ボランティアというのには見返り

を求めずに行うもの。人の役に立つこと、

への嬉しさや、人との絆、感謝の心、そして

、お互いに助けあうことを忘れずに、私も

積極的に多様なボランティアに参加し、人や

社会に貢献できる人になっていきたいです。